



BILLING SERVICE

ビルディング管理ツール アップグレード手順書

第 1 版
平成 18 年 9 月

東日本電信電話株式会社

は じ め に

ビルディング管理ツールにつきまして、バージョン (Ver.1.1.1)を既にインストールされているお客様のアップグレード手順を説明させていただきます。本手順によりアップグレードする場合には、既に読込済みの請求データはアップグレード後もそのまま表示が可能です。読込み直すといった作業は一切不要です。

< 前提条件 >

本操作は管理者権限を持つユーザにて実行して下さい。

< アップグレードパターン >

1. アップグレードパターン

これまでご利用されていたパソコン上でアップグレードを行う場合の手順

2. アップグレードパターン

これまでご利用されていたパソコンとは別のパソコンへ新規インストールし、読込済みの請求データ等を移行する場合の手順

目 次

1. ピリング管理ツールのアップグレードパターン

(1) アップグレードの流れ		P 3
(2) 準備作業		P 3
(3) 手順1 読込済み請求データのバックアップ		P 4
(4) 手順2 本ツール実行ファイル等のコピー		P 6
(5) 手順3 環境の再構築		P 7
(6) 手順4 バックアップした請求データの復元		P 9
(7) 手順5 コード表の更新		P 11

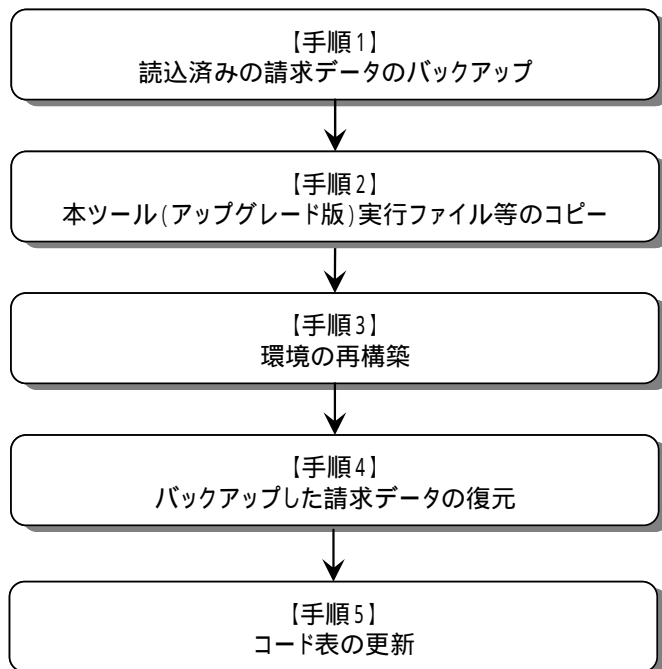
2. ピリング管理ツールのアップグレードパターン

(1) アップグレードの流れ		P 13
(2) 手順1 読込済み請求データのバックアップ		P 13
(3) 手順2 本ツールのインストール		P 15
(4) 手順3 バックアップデータの復元		P 19
(5) 手順4 コード表の更新		P 21
(6) 後処理		P 23

1. ビリング管理ツールのアップグレードパターン

これまでご利用されていたパソコン上でアップグレードを行う場合の手順になります。

(1) アップグレードの流れ

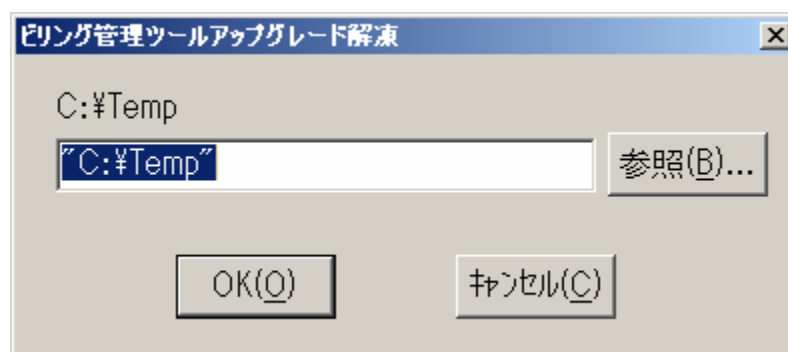


(2) 準備作業

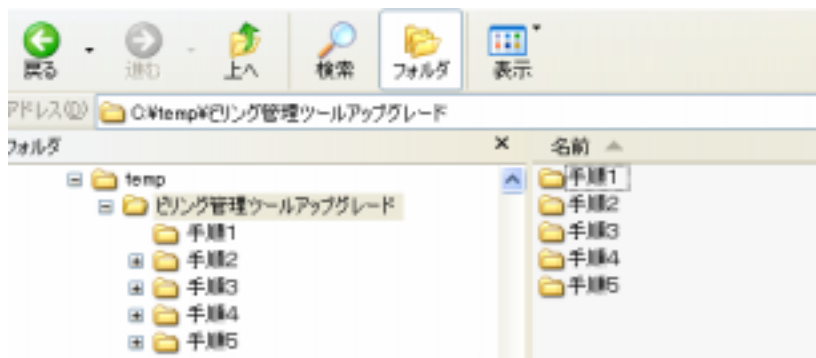
CD-ROM に格納されている自己解凍型ファイルをお使いのパソコンへ解凍します。
アップグレード用 CD を読み込み、「ビリング管理ツールアップグレード解凍_Ver.1.2.exe」をダブルクリックします。



以下の画面が表示されるので、そのまま「OK」ボタンを押します。



「OK」ボタンを押すと、 で指定した解凍先(C:¥Temp)に以下のフォルダが展開されます。

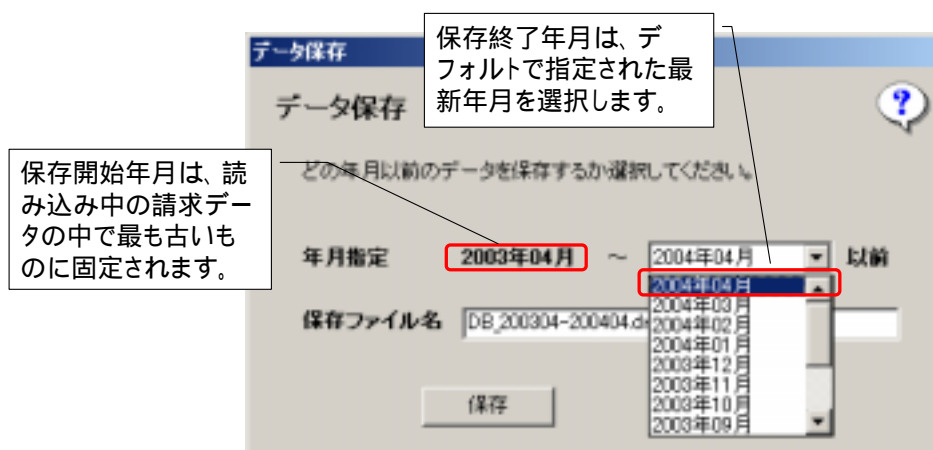


(3) 手順1 読込済み請求データのバックアップ

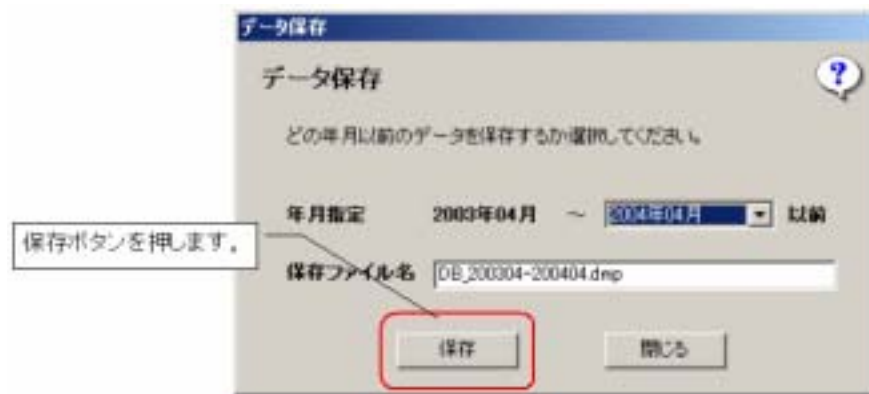
本ツールのデータ保存機能を利用して、既に読込済みの請求データをバックアップします。
 なお、以下に示す手順は、「C:\Temp\Billing Management Tool Upgrade\手順1」フォルダ配下の「読込済みの請求データのバックアップ.pdf」と同様の手順となります。

本ツールの上部メニューバーより、「ファイル」「データ操作」「データ保存」をクリックします。

保存する期間を選択します。保存開始年月は、データベース上に読込み中の請求データの中で最も古いもので固定されています。保存終了年月はデフォルトで指定された最新年月を選択します。



「保存」ボタンを押します。



「OK」ボタンを押します。



【特記事項】

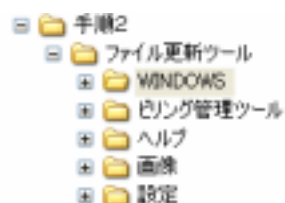
保存ファイル名について

保存ファイル名は、保存する期間に合わせて自動的に設定されますが、変更することもできます。以前に保存済みの保存ファイル名と同一にならないように設定して下さい。なお、ファイル名の最後には必ず「.dmp」という拡張子を付けて下さい。

(4)手順2 本ツール(アップグレード版)実行ファイル等のコピー

ファイル更新ツールを利用し、本ツール(アップグレード版)実行ファイル等をコピーします。

「C:¥Temp¥ピリング管理ツールアップグレード¥手順2」フォルダ配下の「ファイル更新ツール」フォルダを開きます。



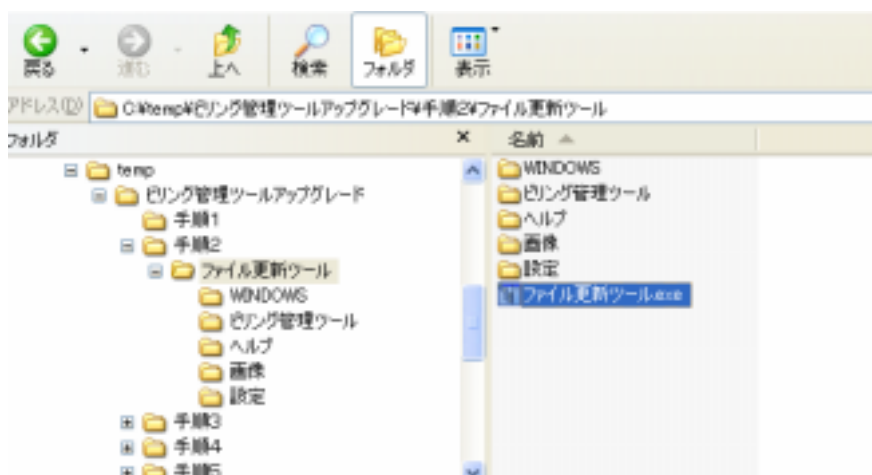
「ファイル更新ツール」フォルダ配下の各サブフォルダに、更新するファイルが格納されていることを確認して下さい。

今回のアップグレードでは、以下のファイルが更新対象となります。

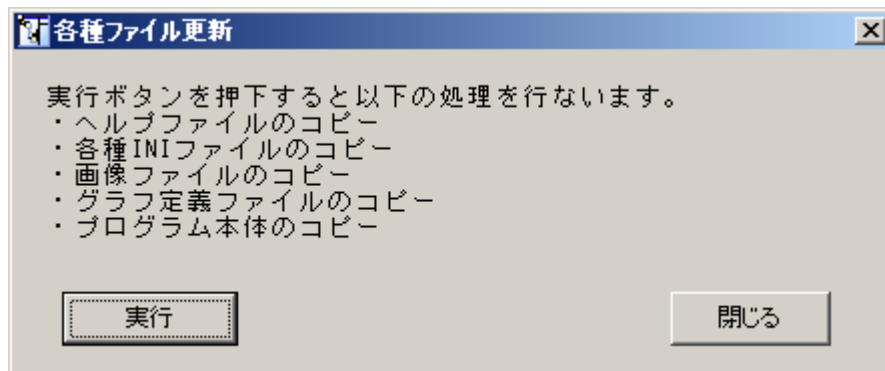
フォルダ名	更新対象ファイル	
ピリング管理ツール	ピリング管理ツール.exe	
ヘルプ	アンインストール、アップグレード手順.htm	各 .htm ファイル名と同名のフォルダも対象です。 (例: 請求データ読込.files)
	バージョン情報表示.htm	
	初期設定手順.htm	
	請求データ読込.htm	
	請求データ表示.htm	
	内訳別集計表示.htm	
設定	DISPLABEL.INI	
	GRAPH.INI	
WINDOWS	MSG.INI	
	NTTOOL.INI	

更新したファイルをシステムに反映します。**この操作を始める前に、ピリング管理ツールが起動していないことを確認してください。**

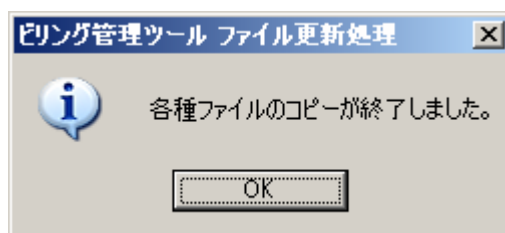
「ファイル更新ツール」フォルダ配下の「ファイル更新ツール.exe」をダブルクリックします。



下図の画面が表示されますので、「実行」ボタンを押します。



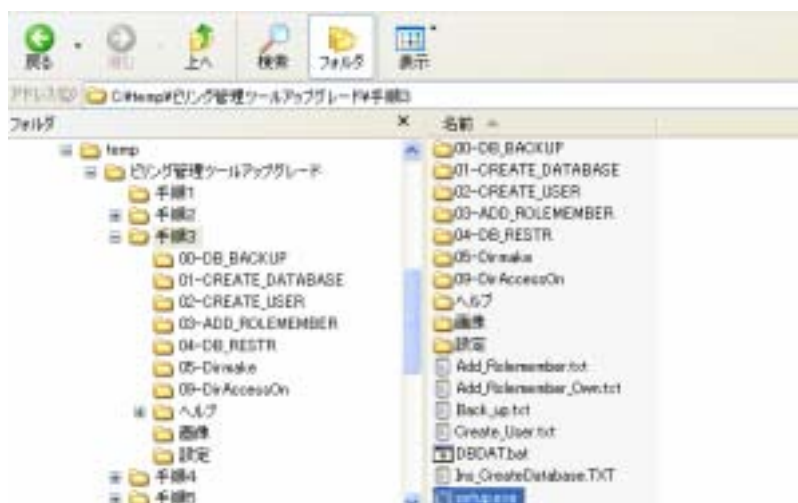
コピーが完了すると、下図のダイアログが表示されます。



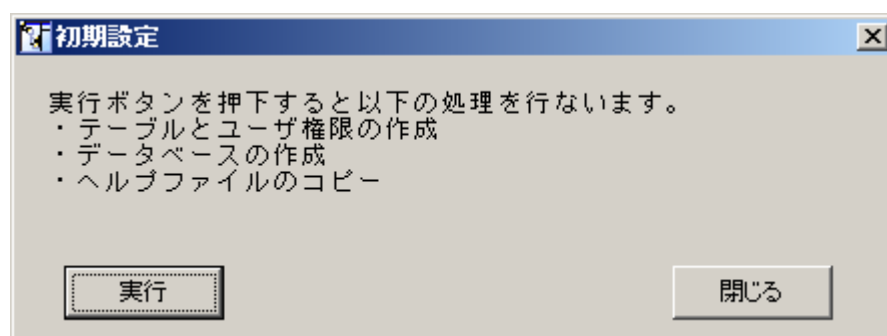
(5) 手順3 環境の再構築

本ツールで使用する環境を再構築します。なお、本操作を実行する前提として、**ビルダ管理ツールが起動していない事を確認してください。**

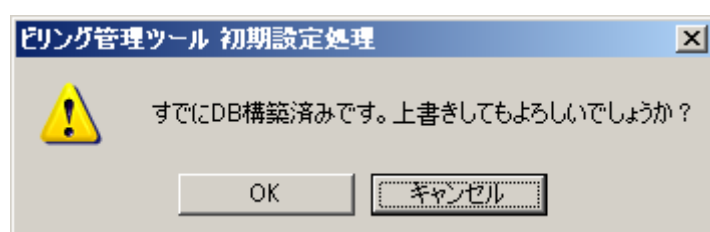
「C:\Temp¥ビルダ管理ツールアップグレード¥手順3」フォルダ配下の「setup.exe」をダブルクリックします。



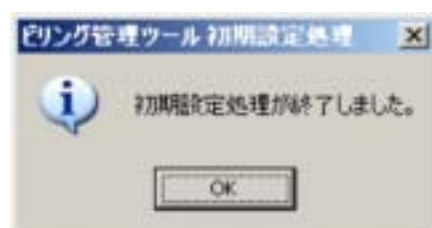
次のような初期設定画面が表示されますので「実行」ボタンを押します。



次のようなメッセージが表示されますので「OK」ボタンを押します。



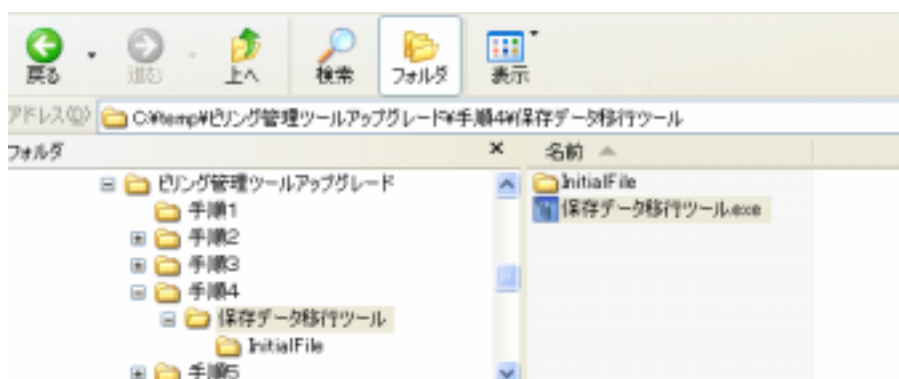
処理が完了しますと次の画面が表示されますので「OK」ボタンを押します。



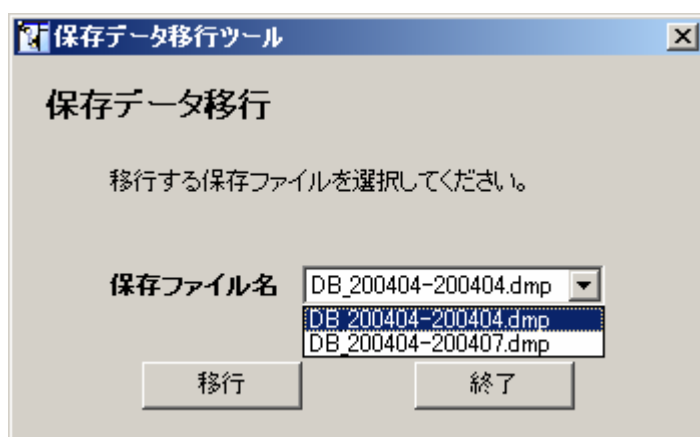
(6)手順4 バックアップした請求データの復元

保存データ移行ツールを利用し、バックアップした請求データを復元します。

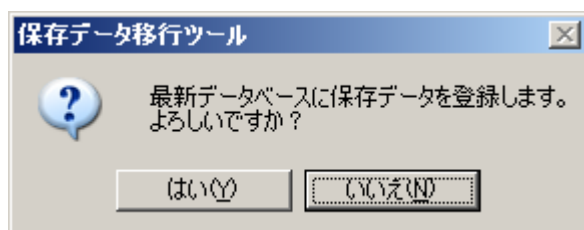
「C:\Temp¥ビルダ管理ツールアップグレード¥手順4¥保存データ移行ツール」フォルダ配下の「保存データ移行ツール.exe」をダブルクリックします。



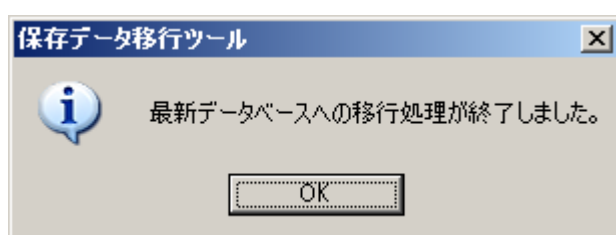
リスト内からアップグレード用に保存した保存ファイルを選択し、「移行」ボタンを押します。



移行確認メッセージが表示されますので、「はい」ボタンを押します。



下記のダイアログが表示されるとデータ復元が完了です。



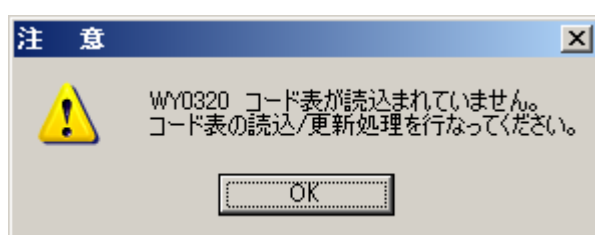
(7)手順5 コード表の更新

本ツールのコード表更新機能を利用して、コード表の更新を行います。本ツールがインストールされているPCのインターネットへの接続有無に応じて以下の手順に従います。なお、以下に示す手順は、「C:\Temp¥ピリング管理ツールアップグレード¥手順5」フォルダ配下の「コード表の更新.pdf」と同様の手順となります。

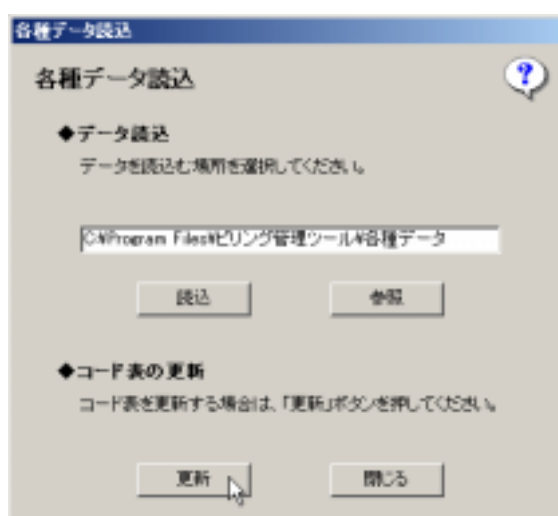
【インターネットに接続したPCの場合】

本ツールを起動し、ツールバー『ファイル』『データインポート』を選択します。

次のようなメッセージが表示されますので「OK」ボタンを押します。



各種データ読み込み画面の「更新」ボタンをクリックします。



コード表の読み込み処理が完了すると以下のダイアログが表示されます。「OK」ボタンをクリックすると各種データ読み込み画面に戻ります。

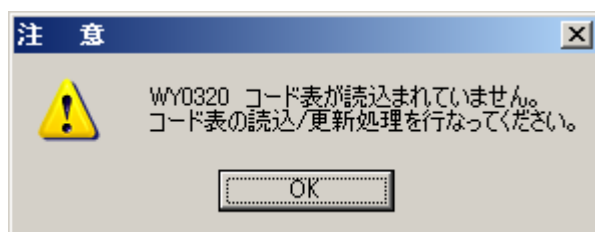


【インターネットに接続していないPCの場合】

NTT 東日本より CD-ROM や FD 等にて提供されたコード表ファイル一式を任意のフォルダに格納します。

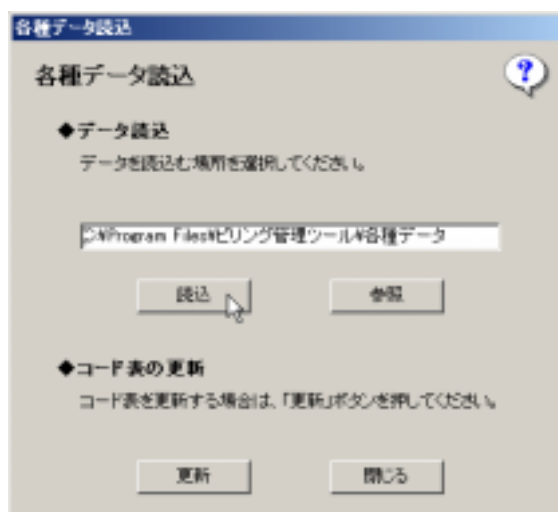
本ツールを起動し、ツールバー『ファイル』『データインポート』を選択します。

次のようなメッセージが表示されますので「OK」ボタンを押します。



でコード表ファイル一式を格納したフォルダの場所を、各種データ読込画面の「参照」ボタンをクリックして、該当のフォルダを選択します。

各種データ読込画面の「読込」ボタンをクリックします。



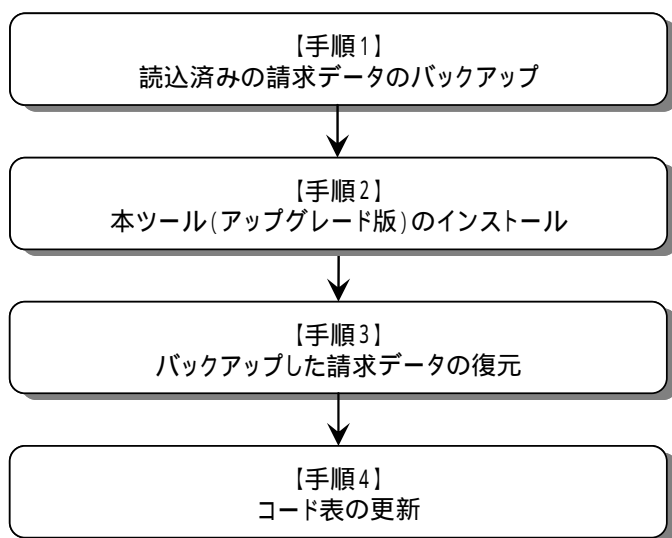
コード表の読込処理が完了すると以下のダイアログが表示されます。「OK」ボタンをクリックすると各種データ読込画面に戻ります。



2. ビリング管理ツールのアップグレードパターン

これまでご利用されていたパソコンとは別のパソコンへ新規インストールし、読込済みの請求データ等を移行する場合の手順になります。

(1) アップグレードの流れ

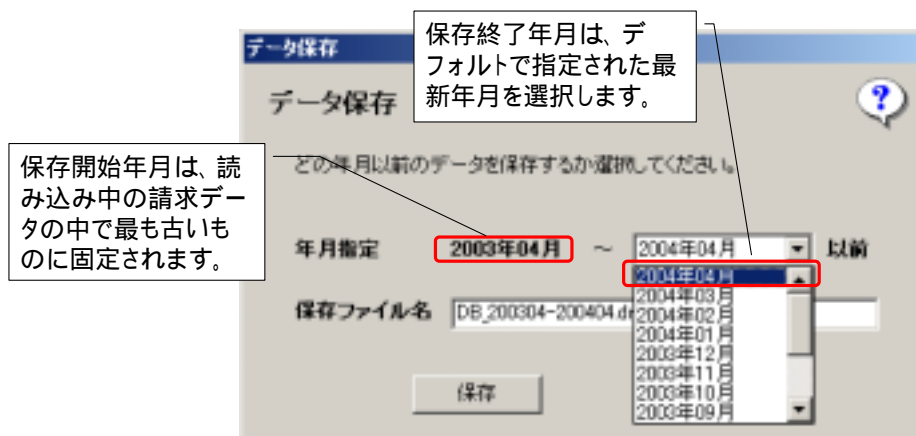


(2) 手順1 読込済みの請求データのバックアップ

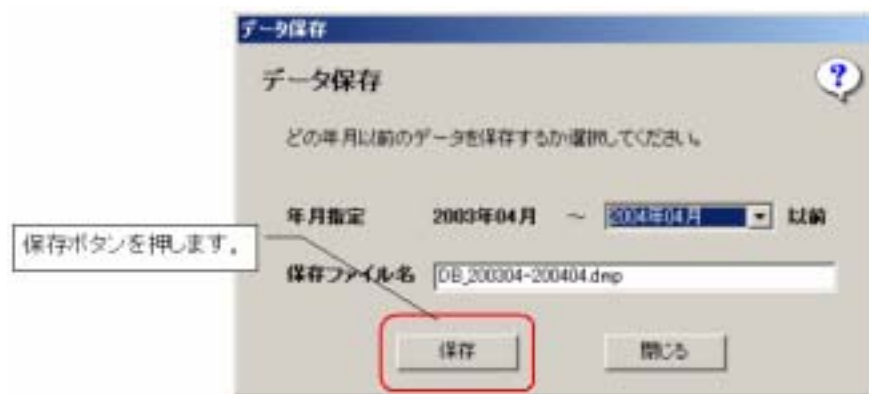
本ツールのデータ保存機能を利用して、既に読込済みの請求データをバックアップします。

本ツールの上部メニューバーより、「ファイル」「データ操作」「データ保存」をクリックします。

保存する期間を選択します。保存開始年月は、データベース上に読込み中の請求データの中で最も古いもので固定されています。保存終了年月はデフォルトで指定された最新年月を選択します。



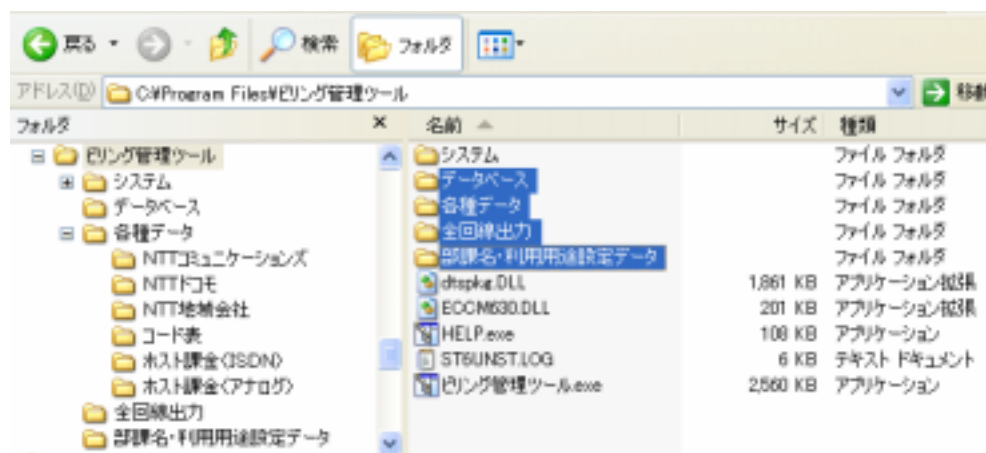
「保存」ボタンを押します。



「OK」ボタンを押します。



本ツールがインストールされているフォルダ(通常は C:\Program Files\ピリング管理ツール)配下の「各種データ」、「データベース」、「全回線出力」、「部課名・利用用途設定データ」の各フォルダを CD-R や USB メモリなどのリムーバブルメディアなどへ保存します。



【特記事項】

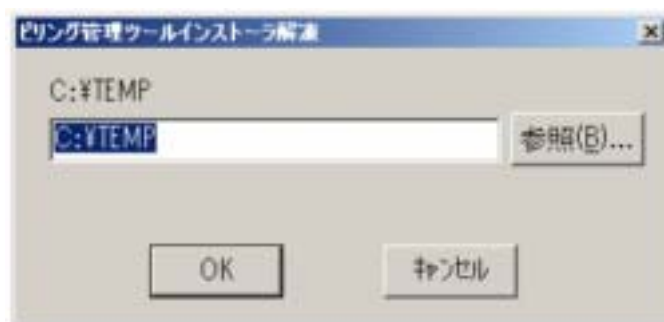
保存ファイル名について

データ保存機能をご利用の際、保存ファイル名は、保存する期間に合わせて自動的に設定されますが、変更することもできます。以前に保存済みの保存ファイル名と同一にならないように設定して下さい。なお、ファイル名の最後には必ず「.dmp」という拡張子を付けて下さい。

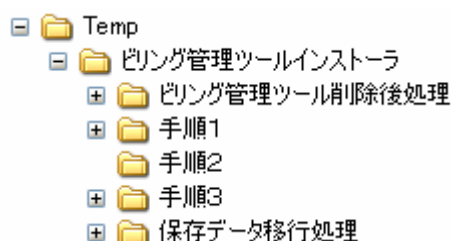
(3)手順2 本ツール(アップグレード版)のインストール

本ツール(アップグレード版)を新たなパソコンへインストールします。

CD-ROM に格納されている自己解凍型ファイルをお使いのパソコンへ解凍します。インストール CD の「ピリング管理ツールインストーラ解凍_Ver.1.2.exe」をダブルクリックしてください。



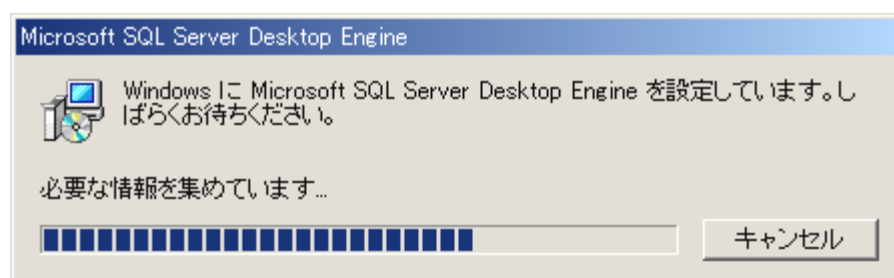
「OK」ボタンを押すと、 で指定した解凍先(C:\Temp)に以下のフォルダが展開されます。



本ツールをインストールするには、MSDE の使用許諾契約書に同意する必要があります。「手順 1」フォルダ配下にある MSDE の使用許諾契約書「license.txt」をお読みになり、同意された場合のみ次の手順にお進みください。

本ツールで使用するデータベースエンジン (MSDE) をインストールします。「手順 1」フォルダ配下の「setup.exe」をクリックします。

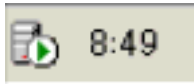
下図の画面が消えればセットアップ終了です。



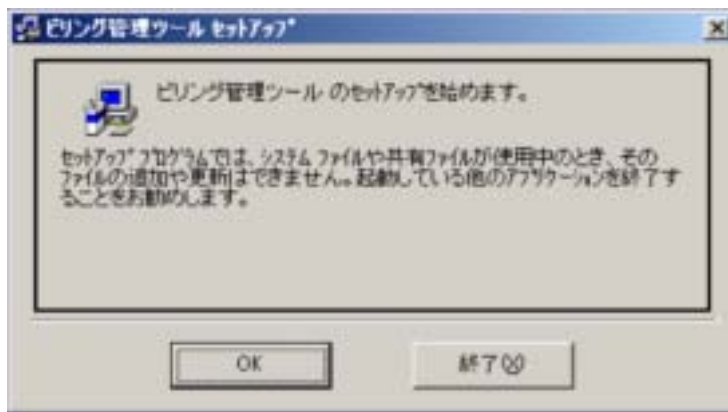
セットアップ終了後、パソコンを再起動してください。

お使いの環境によっては、再起動を促すメッセージ画面が表示されますが、必ず「はい」を選択し、再起動をおこなってください。

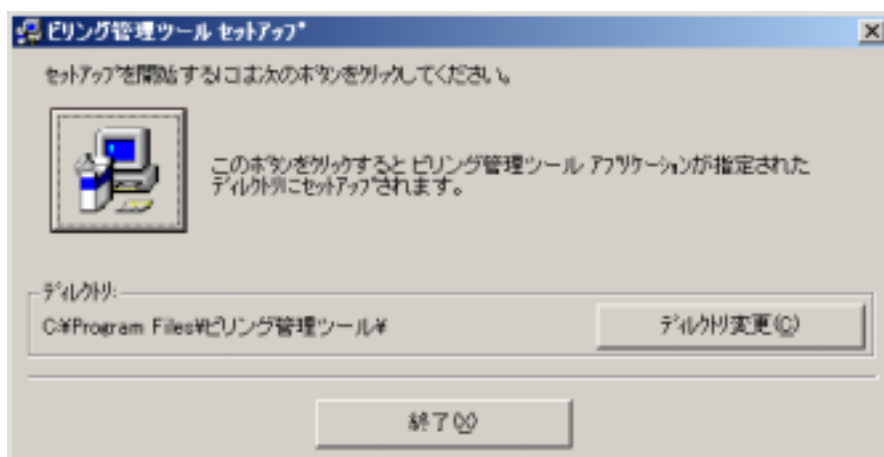
パソコンを再起動後に右下のタスクバーに以下の MSDE のサービスが開始している旨を表すアイコンが表示されていることを確認してください。



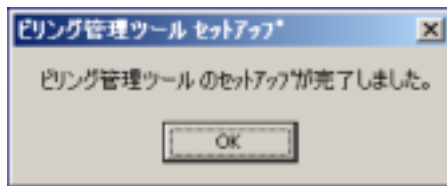
本ツールをインストールします。「手順2」フォルダ内にある「setup.exe」をクリックしてください。セットアップを開始の確認画面が表示されますので「OK」ボタンを押します。



インストール先ディレクトリを確認する画面が表示されますので、インストール先を確認の上、パソコンが表示されているボタンを押します。インストールが開始されます。



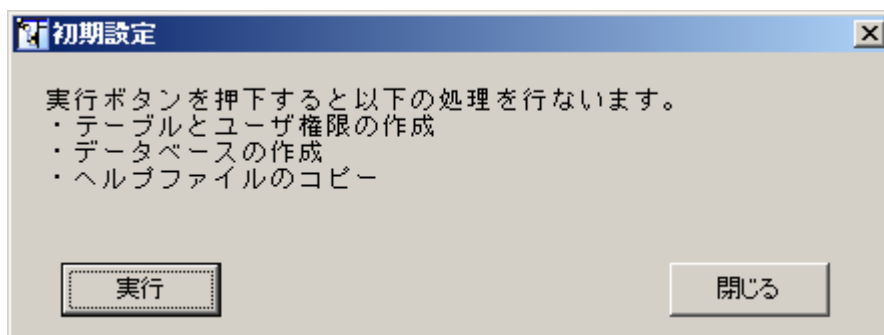
インストールが完了すると、つぎの画面が表示されます。



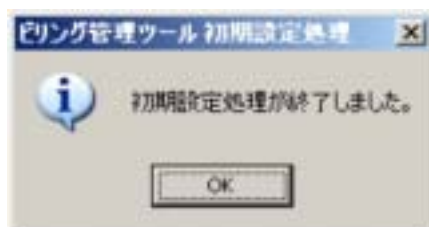
「OK」ボタンを押すと続けて次の画面が表示されますので、「OK」ボタンを押します。



本ツールご利用のための各種初期情報を設定します。「C:\Temp¥ピリング管理ツールインストール¥手順3」フォルダ内にある「setup.exe」をダブルクリックしてください。次のような初期設定画面が表示されますので「実行」ボタンを押します。



インストールが完了しますと次の画面が表示されますので「OK」ボタンを押します。



【特記事項】

インストールにおける制約事項

- ◆ すでにデータベースエンジン (MSDE) がインストールされているパソコンで「手順1」を行った場合には、次のような画面が表示されインストールすることができません。



- ◆ すでに本ツールがインストールされているパソコンへ上書きで、本ツールをインストールすることはできません。正式なアンインストール手順に従ってアンインストール後に、インストールしてください。もし誤ってインストールしてしまった場合には次のような画面が表示されます。



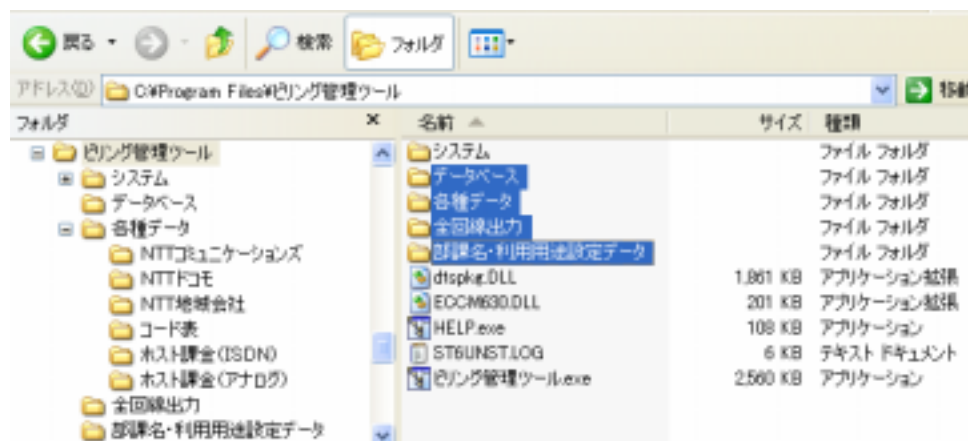
このとき、メッセージに従って進めていくと最後に次のような確認画面が表示されますので「はい」を選択してください。誤ってインストールプログラムを起動した前の状態に戻ります。



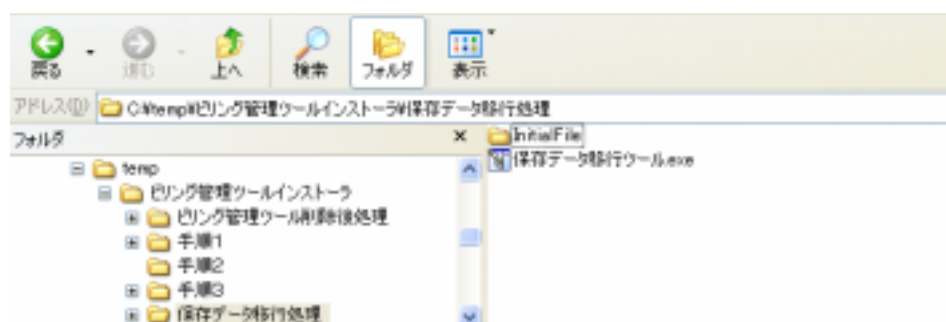
(4)手順3 バックアップデータの復元

保存データ移行ツールを利用し、バックアップした請求データを復元します。

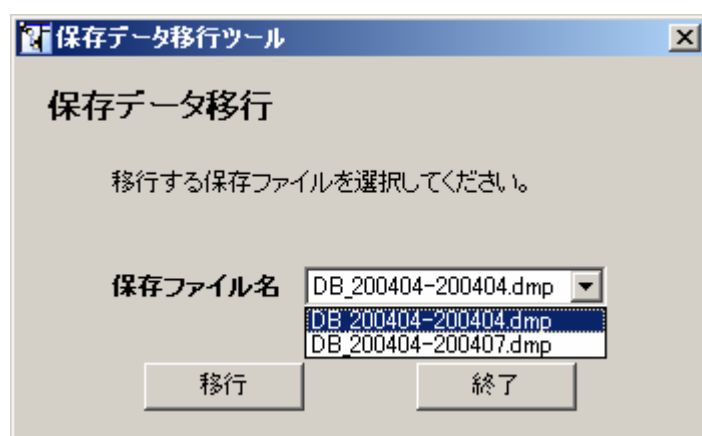
手順1でバックアップした「各種データ」、「データベース」、「全回線出力」、「部課名・利用用途設定データ」の各フォルダを本ツールがインストールされているフォルダ配下へコピーします。



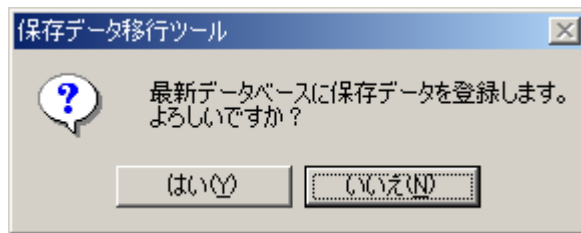
インストール時に作成された「保存データ移行処理」フォルダ配下の「保存データ移行ツール.exe」をダブルクリックしてください。



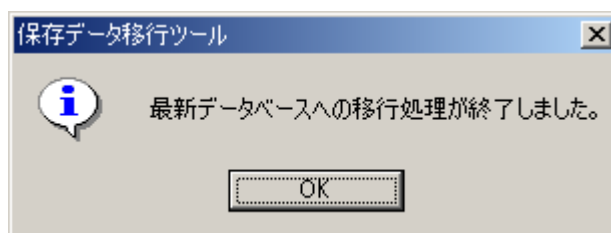
リスト内からアップグレード用に保存した保存ファイルを選択し、「移行」ボタンを押します。



移行確認メッセージが出力されますので、「はい」ボタンを押します。



下記のダイアログ表示でデータ復元が完了です。



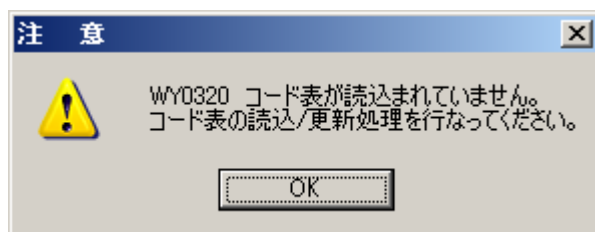
(5)手順4 コード表の更新>

本ツールのコード表更新機能を利用して、コード表の更新を行います。本ツールがインストールされている PC のインターネットへの接続有無に応じて以下の手順に従います。

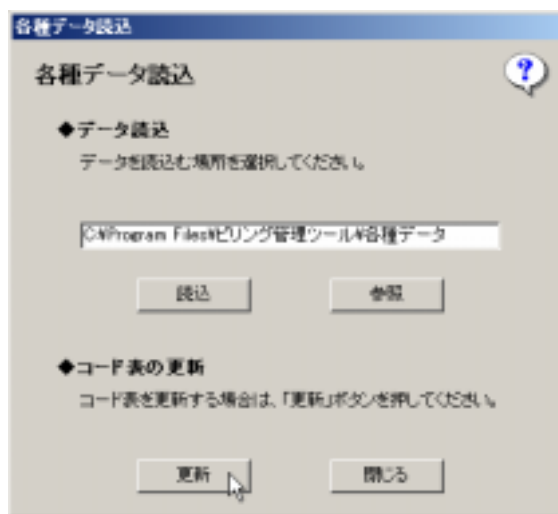
【インターネットに接続したPCの場合】

本ツールを起動し、ツールバー『ファイル』『データインポート』を選択します。

次のようなメッセージが表示されますので「OK」ボタンを押します。



各種データ読み込み画面の「更新」ボタンをクリックします。



コード表の読み込み処理が完了すると以下のダイアログが表示されます。「OK」ボタンをクリックすると各種データ読み込み画面に戻ります。

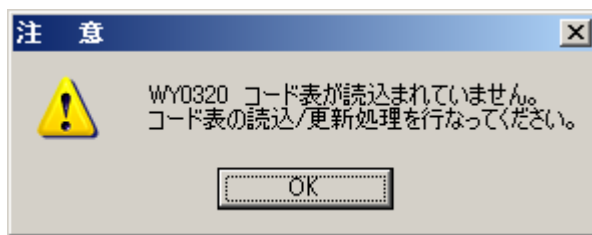


【インターネットに接続していないPCの場合】

NTT 東日本より CD-ROM や FD 等にて提供されたコード表ファイル一式を任意のフォルダに格納します。

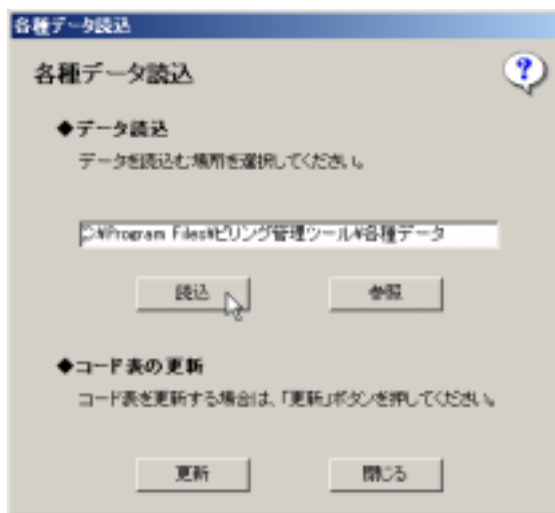
本ツールを起動し、ツールバー『ファイル』『データインポート』を選択します。

次のようなメッセージが表示されますので「OK」ボタンを押します。



でコード表ファイル一式を格納したフォルダの場所を、各種データ読込画面の「参照」ボタンをクリックして、該当のフォルダを選択します。

各種データ読込画面の「読込」ボタンをクリックします。



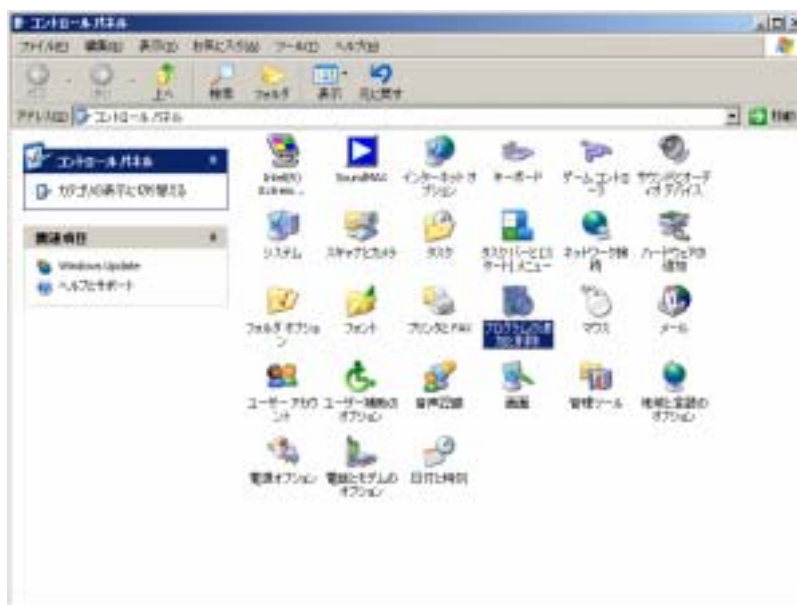
コード表の読込処理が完了すると以下のダイアログが表示されます。「OK」ボタンをクリックすると各種データ読込画面に戻ります。



(6)後処理(これまで利用していたパソコンの本ツールのアンインストール)

新しいパソコンへのインストールが完了した後、これまで利用していたパソコンの本ツールをアンインストールする際には、以下の手順を行ってください。

コントロールパネルを起動し、「プログラムの追加と削除」を選択します。

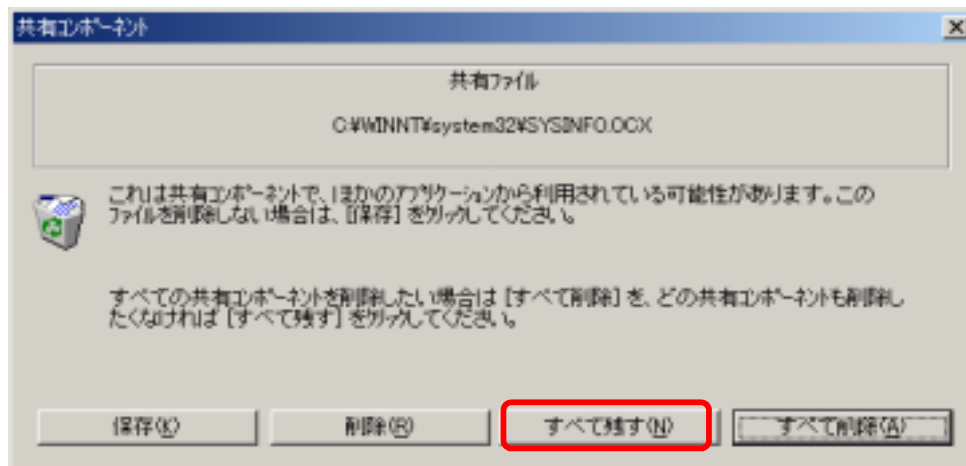


ビルディング管理ツールを選択し、「変更と削除」ボタンを押下し、アンインストールを行ないます。

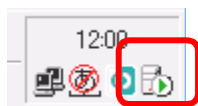


アンインストール確認ダイアログが表示されますので「はい」をクリックします。

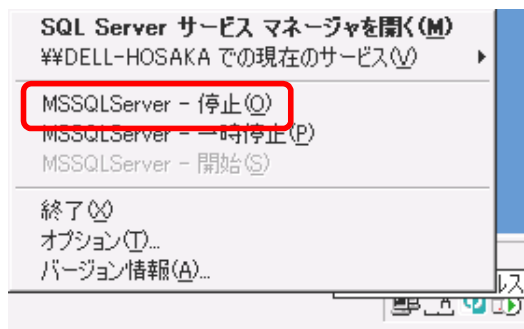
アンインストール中に下記のダイアログが表示される場合があります。「すべて残す」をクリックします。



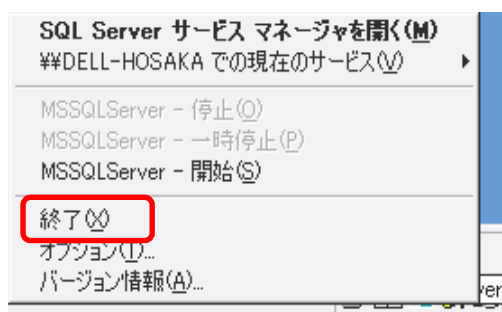
本ツールで使用しているデータベースエンジン (MSDE) を停止します。「タスクトレイ」の「SQLServer サービスマネージャ」を右クリックし、メニューを表示します。



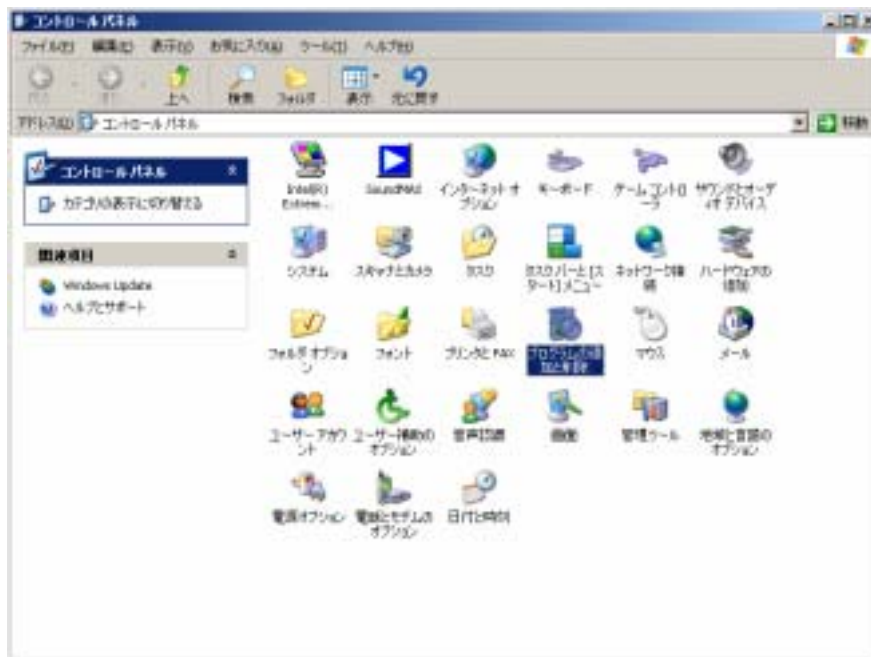
メニューより「MSSQLServer - 停止」を選択します。



メニューより「終了」を選択して、「SQLServer サービスマネージャ」を停止します。



本ツールで使用しているデータベースエンジン (MSDE) をアンインストールします。コントロールパネルを起動し、「プログラムの追加と削除」を選択します。



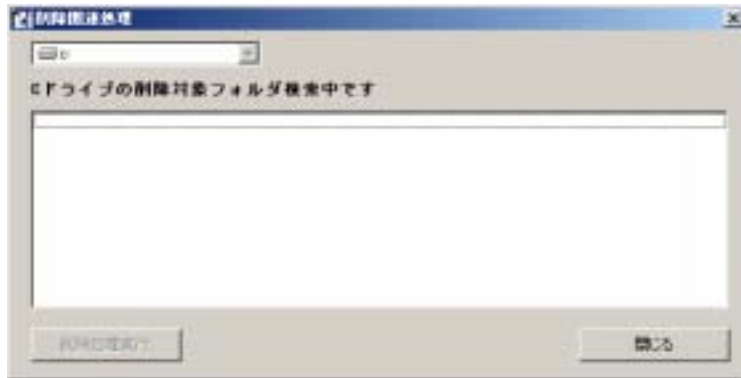
「Microsoft SQL Server Desktop Engine」を選択し、「変更と削除」ボタンを押下し、アンインストールを行ないます。



アンインストール終了後、データベースエンジン (MSDE) のアンインストールを確実にするために、**パソコンを再起動してください。**

本ツールおよびデータベースエンジン (MSDE) で使用していたフォルダとファイルを削除します。インストール時に作成された「ピリング管理ツール削除後処理」フォルダ内にある「削除関連.exe」をダブルクリックしてください

次のような初期設定画面が表示され、削除対象ファイルの検索が始まります。



検索が終了すると次のような一覧が表示されますので「C:\Program Files\Piling管理ツール」を選択後、「削除処理実行」ボタンを押します。



削除フォルダ確認のダイアログが表示されますので、フォルダ名を確認後「はい」ボタンを押します。



以上でアンインストールが終了です。

【特記事項】

アンインストールにおける制約事項

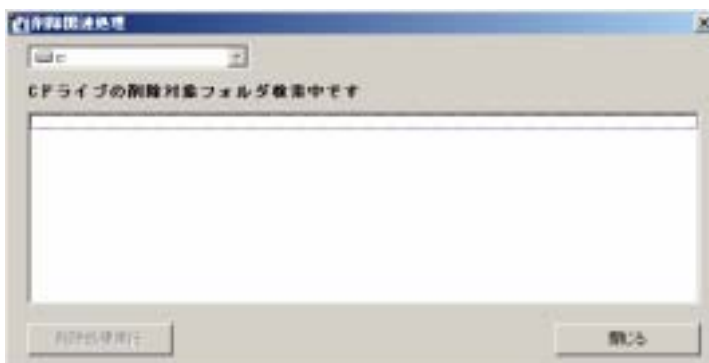
本ツールをアンインストールしていない状態で「ビリング管理ツール削除後処理」フォルダ内にある「削除関連.exe」をダブルクリックし、「C:\Program Files\ビリング管理ツール」を選択後、「削除処理実行」ボタンを押すと下記のメッセージが表示され削除を行なえません。必ず本ツールをアンインストール後に起動してください。



本ツールのインストール時、C ドライブとは別のドライブへインストールした場合には、「削除関連.exe」を起動後にドライブを選択するプルダウンリストよりインストール先ドライブ名を指定してください。



本ツールのインストール時、インストール先のフォルダ名を「ビリング管理ツール」以外の名称へ変更された場合には、「削除関連.exe」を利用して関連ファイル削除することができません。下記のように何も選択せずに「削除処理実行」をクリックしてください。この操作によりデータベース関連ファイル削除のみが行われますので、その後、エクスプローラ等によりインストール先のフォルダを削除してください。



以上